

特別天然記念物

# 土佐のオナガドリ



写真提供 田島 正則

## 特別天然記念物

大正十二年三月に天然記念物土佐の長尾鶏と指定され、昭和二十七年三月に特別天然記念物「土佐のオナガドリ」と改名し、指定を受けています。



## オナガドリの由来

昔、土佐藩主山内公が飛鳥という槍飾りに用いる長い鶏の尾を、藩内の農民から集めることとなり、篠原（今の南国市篠原）の住人武市利右工門が苦心改良の結果、二代藩主忠義のとき、みことなオナガドリを作り出すことに成功しました。これがオナガドリの原種白藤種の始まりであるとされています。伝説では地鶏とキジや山鳥と交配して作ったとなっていますが、正確な記録がないため、よくわからません。

その後、多数の愛鶏家によって絶えず研究改良され、換羽期になつても雄の尾箕は換羽しないで死ぬまで伸び、十数にも達するようになりました。明治初年に褐色種、更に二三十年頃白色種が作り出されて現在の三種類となりました。寿命はおよそ八年～十年。伸びる程度は鶏により、管理によって多少の相違はありますが一ヶ月約〇、七回位で、抜けないため年と共に長くなり三年もたてば約一、五回程のみとななります。

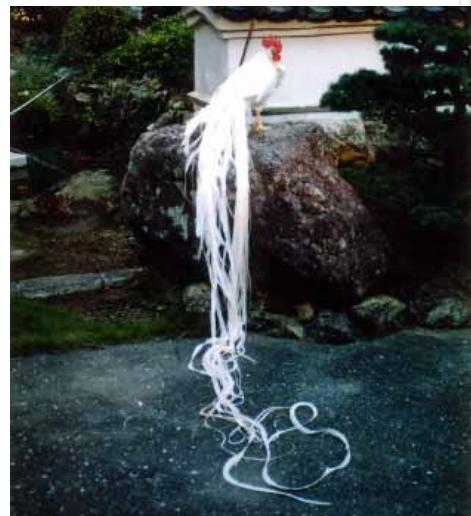


## オナガドリの種類

### 白藤種

当初は小国鶏から作られましたが、明治までは肩、首の周りに茶色、黒色を有する五色（羽が白、黒、緑、黄、褐の五色に彩られていた）と呼ばれる小国系の鶏でした。

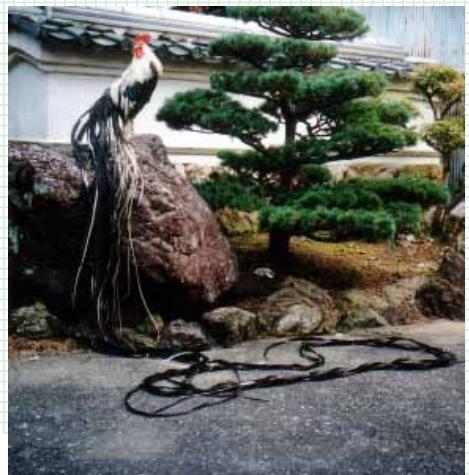
地元の野村金蔵は、純白に近い白色に改良しました。明治二十年ころ茶色系が無くなり、現在の白藤種ができあがりました。



### 褐色種

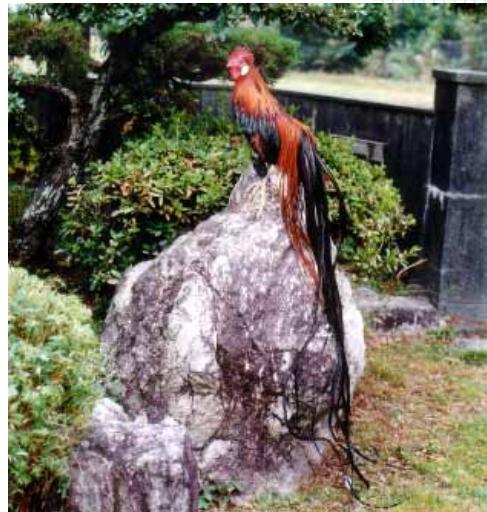
明治時代に入り土佐山田町の篠原兼三によつて、白藤種と東天紅鶏を交配して作られたとされます。また小国鶏から五色鶏そして褐色種ができるという説があります。しかし、戦時中この種は絶滅しましたが、地元では東天紅の雄と白藤種の雌を交配して再現しました。

白藤種を優性、赤篠色を劣性とした伴性遺伝なので比較的に容易にできあがります。



### 白色種

明治中頃 小国鶏からの突然変異として作られたと言われていますが、地元では白色レグホーン（雌）らしき鶏に白藤種を交配したとも言われています。



## オナガドリの特徴

尾部の基本的な 10 対( 20 本)は、尾が抜け替わらずに伸び続けます。

鶏は一般的に日長時間の関係から、換羽を促すホルモンが分泌され、換羽を冬に向かって行いますが、尾長鶏の場合は遺伝的に換羽しません。

### (謡羽 Sickle)

「うたいばね」と呼び、普通の鶏の場合は抜け替わりますが、尾長鶏の場合はそのまま伸び続けます。尾長鶏の場合、抜け替わらない羽が全部で 10 対あります。謡羽はその中の 1 対( 2 本)です。

### (鶏冠 Comb)

鶏の冠には単、クルミ、バラなどの種類がありますが、尾長鶏の場合は単冠です。その凹凸も 5 ~ 7 個が一般的です。

### (嘴 Beak)

鶏の嘴(くちばし)は、水鳥や肉食性の猛禽と比較して穀類を食べるのに都合が良いようにできています。そのため、尾長鳥は米、小麦などで飼育できます。

### (眼 Eye)

鶏の眼は顔の横につき、広角度が見えるようになっていますが、自分の後ろ側だけは見えません。色については我々人間と同じ様には、識別できないと考えられています。

### (胸 Breast)

色々な種類の鶏がいますが、尾長鶏の場合は一般的に丸形です。なお、鶏の中では軍鶏が胸張りの良い形をしています。

### (脚 Shank)

普通の鶏は一般的に黄色ですが、尾長鶏の場合は青色かかった灰色です。なお、形態的に尾長鶏とよく似た鶏で、小国鶏という鶏がいます。足が黄色であるため、容易に見分けがつきます。



## どのような方法で、飼育を行っているの？

基本的に一般の鶏の飼育方法と同じです。しかし、尾を長く伸ばす雄鶏については、長くはえそろった尾に仕上げるため、生後約 1 年たった頃に尾の羽毛を抜き取る場合もあります。その後、30 ~ 40cm 程度に再度伸びた時点で、飼育箱に入れます。

## 飼育箱とは、どのような構造なの？

飼育箱は、高さ約 180cm、幅約 18cm、奥行き約 82cm の板張りの箱です。内部の前方から約 24cm、上部から約 60cm の位置に、止まり木が設置されています。前方上部は格子戸になっており、その下には、引き出し状の餌箱と水入れが設けられています。また、片方の側面は開閉出来る構造で、尾長鶏の出し入れや、下部にある糞受けの取り出しが、容易にできる構造になっています。なお、糞の落下部には仕切りがあり、長く伸びた尾が糞で汚れないように、工夫がされています。

### (肉垂 Wattles)

鶏には肉垂(にくすい)、耳朶(じだ)がありますが、何のためにあるのかは不明です。一種の飾りであると考えられます。

## 飼育箱の構造



## どのような餌を食べているの？

尾を長く伸ばさない雌鶏の餌については、一般的の鶏と同じように完全配合飼料(市販のもの)を主に使用しています。一方、雄鶏については昔からの習慣で、玄米や小麦といった粒状の餌を主食として与え、副食として少量の青菜と動物質の飼料を給与しています。また運動時には、砂やカルシウムといった無機物も与えています。

## 日頃どのような管理が行われているの？

鶏にストレスを与えないようにするために、飼育箱は夏涼しく、冬温かい静かな場所に置き管理しています。飼育箱で生活する雄鶏は 1 週間に 2 回程度、尾が地面につかないように注意を払って、10 分間程度運動を行います。また、飼育箱の中は常に清潔に保つように心掛け、尾には殺虫剤を散布して、害虫の駆除や予防に務めています。なお、尾がもつれないように最善の注意を払って飼育し、尾に糞が着いた時には、石鹼でよく洗い落としてから乾燥します。

## 大篠長尾鶏保存会

明治 41 年に大篠村長尾鶏保存会(大篠村は現在の高知県南国市大塙・篠原・明見が範囲)が設立され、村や郡の補助金により保護・繁殖が始まりました。その後、大正 12 年 3 月に天然記念物の指定を受け、国庫補助金で管理を行うようになりました。しかし戦争が始まり、羽数は急激に減少し(9 羽)尾長鶏は絶滅の危機に至りました。そこで、昭和 24 年 3 月に保存会を再建して増殖と改良に努め、現在では観賞用に維持・増殖が行われています。

# DNAからみた土佐のオナガドリ

都築 政起(広島大学教授)委託研究成果(平成15~17年度)より抜粋

## ニワトリ品種の遺伝的類縁関係

日本においては、古より現在までに約40のニワトリ品種が作出され、保存されている。その中でも、特別天然記念物指定のオナガドリは極めて特異的な存在であるが、このオナガドリと他の品種がどのような遺伝的類縁関係にあるのか極めて興味深い。遺伝的に近縁のものを特定しておけば、将来、もしもオナガドリが絶滅の危機に瀕した場合に、能率的な復元が可能であると考えられるからである。また、世界の驚異オナガドリの成立の謎を解くカギにもなり得るからである。

マイクロサテライトDNA多型に基づいて、天然記念物指定の日本鶏品種の遺伝的変異性ならびに遺伝的類縁関係を明らかにした。材料には、軍鶏グループから大軍鶏、小軍鶏、八木戸、金八を、地鶏グループから土佐地鶏、三重地鶏、岐阜地鶏を用いると共に、天然記念物指定の他の15品種、合計22品種を用いた。また外国由来商用鶏である白色レグホーンおよびロード・アイランド・レッドも用いた。1品種当たり原則的に24個体を用い、20のマイクロサテライトDNA座位が示す変異を自動DNAシークエンサーを用いて調査した。

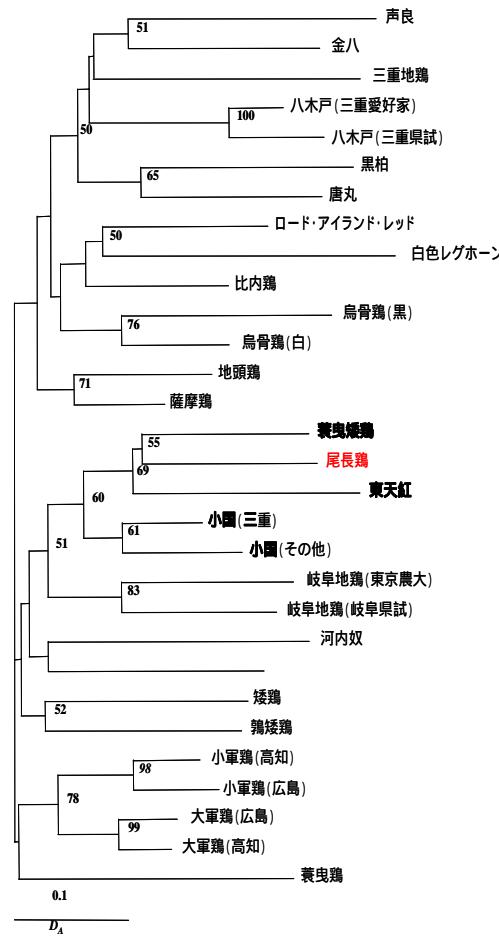
そして、アリル頻度に基づき遺伝距離(D4)を求め、Neighbor joining法を用いて遺伝的類縁関係を示す денドログラムを作成し、次の結果を得た。

黒柏は小国とは遠い遺伝的関係を示し、形態観察に基づく従来の説(小穴、1951)とは異なるものであった。地頭鶏と薩摩鶏は近い遺伝的関係を示し、従来の説を支持するものであった。長くて豊かな尾羽と蓑毛を有する品種、すなわち、尾長鶏、蓑曳矮鶏、



調査鶏の尾の測定状況

東天紅、小国(前3者は高知県原産)はお互いに近い遺伝的関係を示し、従来の形態観察に基づく説と一致した。換言すれば、これらの品種がお互いに近縁であることがDNAレベルで確認された。また、岐阜地鶏はこれらの長尾鶏群と比較的近い関係を示したが、これは初めての見知であると思われる。鶴矮鶏は、土佐地鶏よりも矮鶏に近い関係を示した。これは小穴(1951)の説とは異なるものであった。タンパク多型に基づく研究から、大軍鶏と小軍鶏は遺伝的に近くないとされていたが、本研究では両者は極めて近い遺伝的関係を示した。



## 土佐地鶏(トゾドリ)

日本最小の品種であり、土佐小地鶏とも呼ばれます。また日本最古の品種と考えられており、その体型は、ニワトリの祖先である赤色野鶏に似ていると言われています。羽装は野生型(赤笠)ですが、白色内種も存在します。トサカは単冠、耳朶は赤、脚は黄色です。

## 東天紅鶏(トウテンコウ)

体型は尾長鶏に良く似ています。尾羽も豊かで長いです。ただし、尾長鶏のように終生伸び続けることはありません。雄が時を告げる声が長いことで有名です。長いものでは20秒を超え、この特徴は世界的にみても特異なものです。羽装は赤笠、トサカは単冠、耳朶は白、脚は柳色です。

## 蓑曳矮鶏(ミルヂヤボ)

小型の品種です。その名の通り、蓑毛を長く地に曳いています。また、尾羽も豊かです。小型の品種で、蓑毛が長く尾羽が豊かな品種は、世界的にみても極めて珍しいものです。羽装は本来赤笠ですが、白笠および白色内種も存在します。トサカは単冠、耳朶は白、脚は柳色です。

「蓑曳矮鶏」は天然記念物指定時の名称です。しかし、本品種は品種としての「矮鶏(チャボ)」とは直接の関係はありません。本品種の場合、「矮鶏」というのは、「小さいニワトリ」を意味する言葉です。では、単に「蓑曳」と



土  
佐  
地  
鶏



蓑  
曳  
矮  
鶏

呼べば良いようなものですが、品種としての「蓑曳鶏」は別に存在します。そこで、品種としての「矮鶏」および「蓑曳鶏」と勘違いされないために、現在では、本品種は、全国的には一般に「尾曳(オヒキ)」と呼ばれています。また、ミノヒキチャボとオヒキは両方存在し、お互いに別物であるという意見もあります。

**鶴矮鶏(クヅチヤボ)**:土佐小地鶏と同等の体格をもった小型の品種です。最大の特徴は、尾羽(尾椎)を欠損している点です。尾羽が存在しないため、蓑毛が際立って、美しく見えます。尾羽欠損品種は外国にも少数存在しますが、小型鶏での尾羽欠損は極めて珍しいものです。赤笠が基本色ですが、その他に多くの内種があります。トサカは単冠、耳朶は白、脚は黄色です。

「鶴矮鶏」は天然記念物指定時の名称です。しかし、本品種も、「蓑曳矮鶏」の場合と同様、品種としての「矮鶏」の仲間ではありません。やはり、本品種に冠せられた「矮鶏」の字は、「小さいニワトリ」を意味するものです。よって、現在、全国的には、チャボとの混同をさけるために、本品種を「鶴尾(ウズラオ)」と呼んでいます。



東  
天  
紅  
鶏



鶴  
矮  
鶏

# 昭和のオナガドリ



写真提供 池本 俊夫

**南国市教育委員会**

〒 783-8501  
南国市大塙甲 2301  
(088)880-6569